

望ましい人間関係を築き、平和的に共存できる社会を目指して

北海道教育大学附属釧路中学校

校長 早勢 裕明

担当者 村岡 愛司

1 戦争と平和の歴史を通して、これからの望ましい人間関係について考える平和学習

ユネスコは、1945年ユネスコ憲章の前文において「戦争は人の心のなかで始まるものであるから、人の心のなかに平和のとりでを築かなければならない」と述べている。現在の日本にとって、「平和」は普通のことであり、空気のような存在で目に見えにくい。しかし、人類の歴史においては、人々の平和への願いとは裏腹に紛争や宗教間の争いが繰り返されてきた。

「平和」の言葉が意味する対象は、身近なところでは家族や友人間の親和的關係、学級内や学校内などの平穏な落ち着いた關係である。平和の対象をさらに広げると、安心できる地域の治安、道や国レベルの大きな地域での安全や安心、さらには近隣国との友好的關係、最も大きくは世界全体のレベルでの國際平和がある。

本校では平成24年より第2学年の宿泊研修で長崎県を訪れている。戦争と平和の歴史、核兵器の投下や戦争の実態と原因の分析、平和をつくりだしていくための努力の歴史、戦争をなくしていくための知恵や思想などを学習の中心に据えて、宿泊研修での取組を軸として教科等横断的な枠組みで平和について考える教育活動を展開している。

本活動を通して、単に戦争の悲惨さや非人間性を伝えるだけではなく、人間への信頼、人間の尊厳、平和への願いなどについての態度を醸成したいと考えている。

2 活動計画【全17時間（総合10、国語科2、社会科5）】

時	教科	活動内容
1	総合	○オリエンテーション（平和学習について）
		○DVDの鑑賞「私たちが伝える被爆体験」
		○平和セレモニーに向けた平和折り鶴の制作説明
2	総合	○平和宣言についての紹介 ・広島長崎のその後について（プレゼンテーション） ・長崎の平和記念式典の様子を視聴する。 ・実際の平和宣言の紹介から附中平和宣言のための取組へ
		○平和折り鶴の制作
3	総合	○「人体に及ぼす放射線の影響と長崎」をテーマとする講演
4	総合	○附中平和宣言文の読み上げ（文化委員） ○平和セレモニーに向けての次第の確認、平和鶴の披露
5～8	総合	○被爆体験講話 ○原爆資料館参観、平和記念公園にて平和セレモニー開催
9～10	総合	○座談会（1年生への成果交流会）
10～11 3年生 5～6月 に実施	国語	教材「無言館の青春」の筆者が提供している「文章」「画学生の作品、手記、略歴、及び遺品の紹介」「詩」から2点以上取り上げ、自身がこれまで戦争や平和について考えたり見聞きしてきたことを織り交ぜながら級友に対してプレゼンテーションを行う。
12～17 3年生 5月実施	社会	歴史的分野「二度の世界大戦と日本」で平和学習を踏まえ、なぜ戦争が起り、原子爆弾が投下されたのか、様々な立場を踏まえ課題追究を行う。

3 活動の実際

	<p>◆写真上は平和への願いを込めて鶴を折っている風景</p> <p>◆写真左は全校生徒で制作した千羽鶴</p>
<p>◆放射線の影響と長崎に関わる講演</p>	<p>◆原爆資料館を参観した後、平和記念公園にて、平和セレモニーを行っている様子。</p>
<p>◆帰校後、宿泊研修で得られた知識や経験をプレゼンテーション用にレポートにまとめ、1年生を対象に座談会形式で宿泊研修の成果と課題を伝達している。1年生にとっては次年度の行事や学習活動への見通しを持つ機会となる。また、異学年交流を通して、幅広くコミュニケーションを図ることができ教育効果が期待できる。</p>	<p>◆平和に関わる学習を踏踏まえて学年年生徒一人一人が考えや思いを綴る。その言葉や願いをつなぎ合わせて「附中平和宣言」を制作している。</p> <p>(附属釧路中学校 HP に過去6年間の平和宣言を掲載しております)</p>

4 成果と課題

取組が始まって6年目を迎え、毎年、評価・改善を行い、取り扱う教材や学習内容が精選されてきている。しかしながら、平和学習が単に「戦争反対」や「平和は大切」なんだといったように短絡的な価値観や偏向しないように留意しなければならない。そのためには「平和」への考え方を教職員が押しつけないようにすることが必要であり、客観的な歴史や背景、資料を提示し、生徒がこれからの生活の中で、人どどのように関わり、所属する場所でどのように行動することが望ましいのかを判断できる資質能力を醸成しなければならないと考えている。